

# 岡山大学 MONTHLY DIGEST

VOL.103  
2024.11TOPICS  
1

## 資源植物科学研究所の馬建鋒教授、山地直樹准教授が 2024年版の「世界で最も影響力のある科学者」に選出！



馬教授



山地准教授

Clarivate Analytics社が11月19日に発表した高被引用論文著者リスト2024年版において、本学資源植物科学研究所植物ストレス学グループの馬建鋒教授と山地直樹准教授が選出されました。馬教授は2015年版から10年連続、山地准教授は通算9回目の受賞という快挙となります。

馬教授は受賞を受け「10年連続選出され、大変光栄に思います。これからも地道に精進します」とコメント。山地准教授は「ゆっくりですがこれからも走り続けます」とコメントしています。

本学は2023年7月に7つの「岡山大学最重点研究分野」を制定しており、農作物・植物科学分野もその一つです。馬教授、山地准教授は本学の強みである同分野の確立に寄与しており、地域中核・特色ある研究大学としての本学の発展へさらなる活躍が期待されています。

参考 [https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news\\_id13752.html](https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id13752.html)

TOPICS  
2

## 技術職員の見える化の強化推進として岡山大学「研究者総覧」を 「研究者・技術者総覧」へ～わが国初の試みを実施～

11月12日、教員情報サイトである岡山大学「研究者総覧」を教育研究系技術職員の組織である総合技術部を含めた「研究者・技術者総覧」に改修しました。

今回の改修は、「研究ファースト」の研究大学として、技術職員を技術者と位置付けるとともに、持ち得る技術ノウハウや技術研究の業績などが見える化することで、学内における教員（研究者）と技術職員（技術者）の相互理解の深化やコラボレーション強化促進の一助等とすることを目的としています。

学外的には今後、増加が予想される技術的な相談、コンサルティング業務等に対応するための情報公開のひとつとして活用することになります。

参考 [https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news\\_id13737.html](https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id13737.html)



### Pick up!

## 雨ニモマケズ！岡山大学祭を開催



11月2～3日に、津島東キャンパスで大学祭（津島祭）を開催しました。1日目は悪天候のため、開始時刻を遅らせてのスタートとなりましたが、大勢の方が来場し、今年度のテーマである「拍手喝采岡大祭～元気いっぱいやりん祭～」のとおり、元気いっぱいの大学祭となりました。

キャンパスには、バラエティ豊かな模擬店が82店舗並び、学生らが来場者をお呼び込む姿で活気づいていました。会場内4カ所に設けられた特設ステージでは、恒例の文化系・体育系クラブの各種企画や音楽ライブに加え、学長がコンテスト企画に登場したり、学生団体がダンスや演舞などのパフォーマンスを披露したりするなど、来場者とともに賑わっていました。

参考 [https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news\\_id13729.html](https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id13729.html)



TOPICS

3

## アーティストのAIさん×那須学長の対談が掲載されました

アーティストのAIさんと本学の那須保友学長のSDGsに関する対談が、AIさん主宰のInstagramアカウント「TAP | Take Action for Peace」の投稿へ掲載されました。

本学は全国に先駆け、2016年よりSDGsの推進に積極的に取り組んでいます。その取り組みの一つとして、世界196カ国以上から各国・地域を代表する次世代の若いリーダーたちが一堂に会する世界最大級のサミットである次世代リーダー・グローバル・サミットOne Young Worldに、公式のパートナーとして、毎年学生を継続し派遣し、グローバルリーダーの育成を行っています。AIさんがOne Young World Japanのオフィシャルアーティストとして就任しているご縁から、今回の対談が実現しました。

「岡山から世界に新たな価値を創造し続けるSDGs推進研究大学」として、国立大学で初めてSDGsを掲げた本学が取り組んでいるSDGs貢献活動について紹介されており、学生の夢を応援する本学から若者へ向けたメッセージも込められています。ぜひご覧ください。

参考 [https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news\\_id13707.html](https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id13707.html)



TOPICS

4

## 「岡山大学ホームカミングデイ2024」を開催

11月2日、同窓生および退職教職員が、再び本学に足を運び、大学の近況にふれ、同窓生、在学生、留学生、教職員との交流を深めることを目的として「岡山大学ホームカミングデイ2024」を開催しました。

メイン会場周辺には、卒業生や在学生・教職員をはじめ大学にゆかりのある方々による出店や、キッチンカーが並びました。当日はあいにくの雨でしたが、ホームカミングデイとしては初の大学祭との同日開催ということもあり、雨が上がった後には多くの来場者がありました。

創立五十周年記念館にて行われたオープニングセレモニーでは、グリークラブが岡山大学学歌等の合唱を披露した後、那須保友学長による開会あいさつが行われ、岡山大学Alumni(全学同窓会)の小長啓一会長が祝辞を述べました。また、金光功労賞・金光奨励賞授賞式、おかえりベンチ設置セレモニーほか、各学部等の会場でもさまざまな行事が開催されました。

参考 [https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news\\_id13683.html](https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id13683.html)

PRESS  
RELEASE小児先天性心疾患に対する細胞治療法の8年経過予後を解明  
～増えぬ小児臓器移植の現状を打破する新たな治療戦略～

岡山大学病院新医療研究開発センター再生医療部の王英正教授と同大学病院小児科の平井健太研究准教授ならびに国内7施設の共同研究グループは、予後不良とされている小児単心室症に対して、細胞移植を併用することで、有意な生命の延伸効果があることを突き止めました。

研究成果は11月11日、米国の心臓病学会雑誌「*Journal of the American Heart Association*」のOriginal Research電子版として掲載されました。

重篤な心不全に対する細胞治療法の短期的な臨床成績は報告されているものの、長期的な予後改善効果はこれまで明らかにされていません。岡山大学病院では世界で最大規模の小児心不全への細胞移植を実施してきた経験があり、今回、8年目における細胞治療のメリットを解明しました。臓器提供者不足によって小児心臓移植が進まない国内の現状を打破する新たな治療戦略となることが期待されます。

参考 [https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release\\_id1299.html](https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id1299.html)



平井研究准教授

王教授

